

令和6年度 第1回JR小野田線活性化委員会 議事録

令和6年11月19日（火）

1 協議事項

発言者	発言要旨
榊原委員長	地域公共交通は、人口減少やコロナの影響等により長期的に利用者が減少しており、大変厳しい状況に置かれている。特にJR小野田線をはじめとしたローカル鉄道は危機的な状況にあるとされ、バスも運転士の不足など課題が山積している。こうした中、JR小野田線活性化委員会では、JR小野田線の利用の活性化を図るため、「鉄道とバスの共通乗車制度」の導入に向け、検討を重ねてきたところ。 本日は、令和5年度事業報告及び決算報告を行うとともに、令和6年度の事業内容についてご協議をお願いしたいと考えている。また、今後実施を予定している「鉄道とバスの共通乗車制度」のモニター実験についてもあわせて協議したいと考えている。 JR小野田線沿線地域の公共交通を、将来にわたって持続可能なものとするため、本日は闊達な御議論をお願いしたい。
◆令和5年度事業報告、収支決算及び監査報告について	
榊原委員長	事務局より説明いただいた。質疑の前に、監事より監査報告をお願いしたい。
尾上幹事	10月31日、令和5年度分の監査を実施いたしました。監査の結果、適正かつ正確であることをご報告します。
榊原委員長	それでは御質問や御意見があればお願いしたい。
榊原委員長	現在、JR小野田線活性化委員会公式SNSのフォロワー数を教えてほしい。
事務局	本日11月19日時点でInstagramが243人、Xが119人である。
榊原委員長	そのほか質問がないようであれば、承認とさせていただきます。
◆令和6年度活動方針、事業計画（案）及び収支予算（案）について	
榊原委員長	事務局より説明いただいた。御質問や御意見があればお願いしたい。
磯部委員	鉄道・バス共通パスのモニター実験の対象者25人はJR定期利用者という理解でよろしいか。また、今年度事業はJR負担とのことだが、来年度以降の負担はどうなるのか。
飯島委員 代理	対象者は小野田駅から南小野田駅間の通学定期利用が42名で、そのうち小野田工業高校生が約25名である。
事務局	来年度の事業負担等は現時点未定である。今後の勉強会等で検討してまいりたい。

榊原委員長	本事業の来年度以降についての議論は大変重要かと思う。モニター実験で得られた結果とともに検討していくことが必要か考える。
桶谷委員	モニター実験で、例えばバスで公園通から厚狭まで乗車する場合は共通パスの利用は可能か。また、J R 定期券の有効期限情報をアプリで登録することはできないのか。
飯島委員 代理	このモニター実験ではあくまで小野田駅から公園通までの範囲内が対象となるため、公園通から厚狭まで乗車する場合は通常バス運賃をいただくこととなる。なので、一旦小野田駅で降車していただき、再度小野田駅で乗車いただければ、共通バス範囲内は無料で利用できる。 有効期限について、システムの登録することは可能であるが、期限が失効した際にお知らせする通知設定等が難しいため、バスの運転士に有効期限を見せる運用で実施できればと考えている。
桶谷委員	公園通から乗車して、小野田駅で再度整理券を取得すれば、降車することなく小野田駅から厚狭駅分のバス運賃を支払うことが出来そうだが、そういったことは可能か。
事務局	そのような考えも検討過程で出てきたが、バス運転士のオペレーションが煩雑になるので、今回のモニター実験ではあくまで範囲内が無料で、先ほど飯島委員代理がおっしゃられた運用で実施していきたいと考えている。
榊原委員長	学校のスケジュール等は把握しているか。
事務局	今後のスケジュールは、改めて学校に確認していく。今回のモニター実験の開始日は定期考査の開始日となっているため、J R と事務局で早速対象者に説明会を実施する予定。昼間時間帯にもダイヤが増えるこの鉄道・バス共通バス制度の良さを実感してもらいたいと考えている。
榊原委員長	モニター実験の期間が短いため、出来るだけ年内に利用していただけるように周知を図ってもらいたい。
尾上監事	この活性化委員会は例年この時期ぐらいに開催されるものか。
事務局	毎年この時期に開くと決めているわけではないが、今回はJ R のアプリが完成し、モニター実験を行うことができる状態となったのが、この11月であるため、活性化委員会で諮らせていただいているところ。
尾上監事	おっしゃられた都合等もあるだろうが、実証事業の期間等を考えると、もう少し早めに活性化委員会を開催できれば良いか考える。今後検討してみたい。
榊原委員長	このモニター実験で得られるデータはどんなものか。例えばAさんの実験期間中の総計データを取ることはできるのか。
飯島委員 代理	乗降の駅、日時を取ることが可能。総計も積み上げたデータを整理すればとることは可能である。

榊原委員長	おっしゃられたデータに加えて、ＪＲが調べるのか、学校が調べるのかは分からないが、新規で購入された通学定期についての情報も収集していくと良いと考える。
田中委員	来年度に弊社のバスにタッチ決済（電子マネー、クレジット等）に対応するシステムを導入するので、この鉄道・バス共通パス事業にも活用いただけたらと考えている。
榊原委員長	この事業は全体としての公共交通の利用者をどう増やしていくかという視点で検討が開始された。公共交通同士が競合するということではなく、ゆくゆくはなるべく大きな範囲での取組となればと考えている。

２ その他

意見等、特になし。

閉会